

# 大阪湾漁場環境速報

2024年 2月14日発行  
兵庫のり研究所

海域全般に、小型珪藻のスケルトネマが多く確認されており、湾奥では大量発生しています。また、大型珪藻のユーカンピアも確認されました。そのため窒素は、陸水等の影響が見られた湾奥部を除き、概ね1 μg-at/L以下の値に低下しています。

(水温) 表層は湾奥で9℃台、紀淡海峡周辺で11℃前後、その他の海域は10℃台で、平均10.4℃。平年比0.4℃高い。-10m層は平均10.4℃(平年比-0.1℃)。

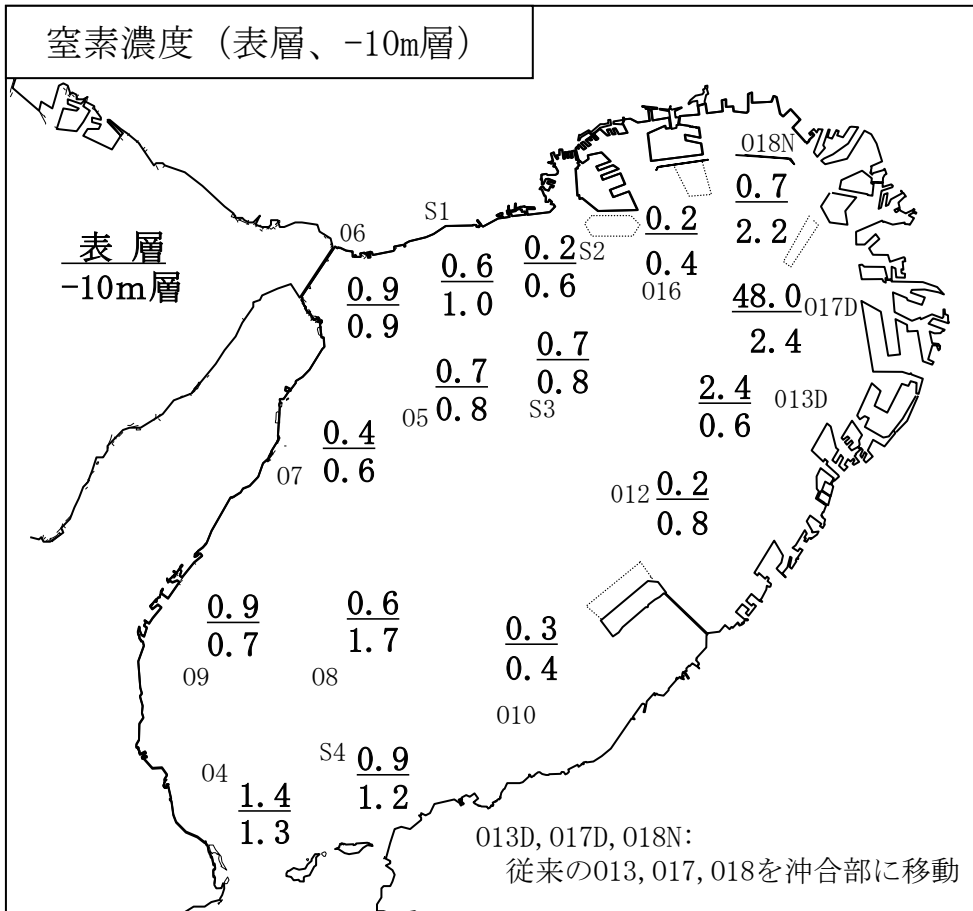
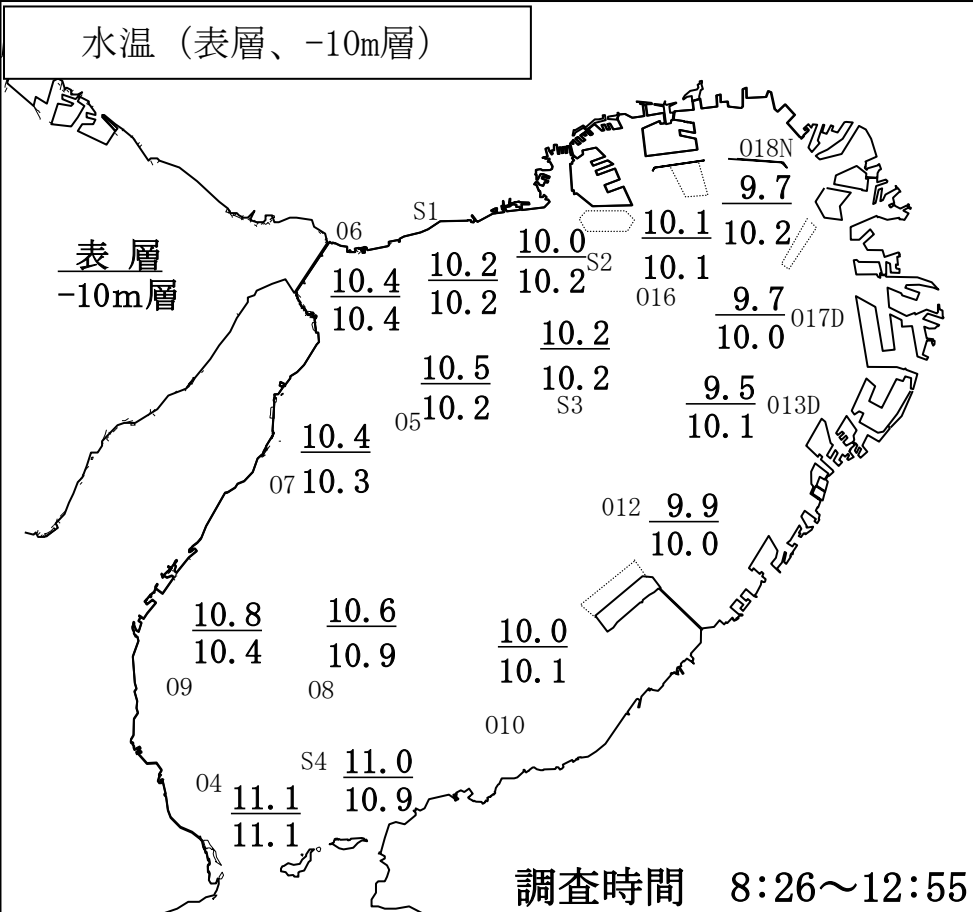
(塩分) 表層平均32.35psu(平年 32.38)。-10m層平均32.47psu(平年 32.62)。

(栄養塩、他) 表層の窒素は平均0.6 μg-at/L、リンは平均0.23 μg-at/L。窒素は平年(3.9 μg-at/L)より低く、リンも平年(0.28 μg-at/L)よりやや低い。-10m層(平均)は、窒素0.9 μg-at/L、リン0.28 μg-at/L。

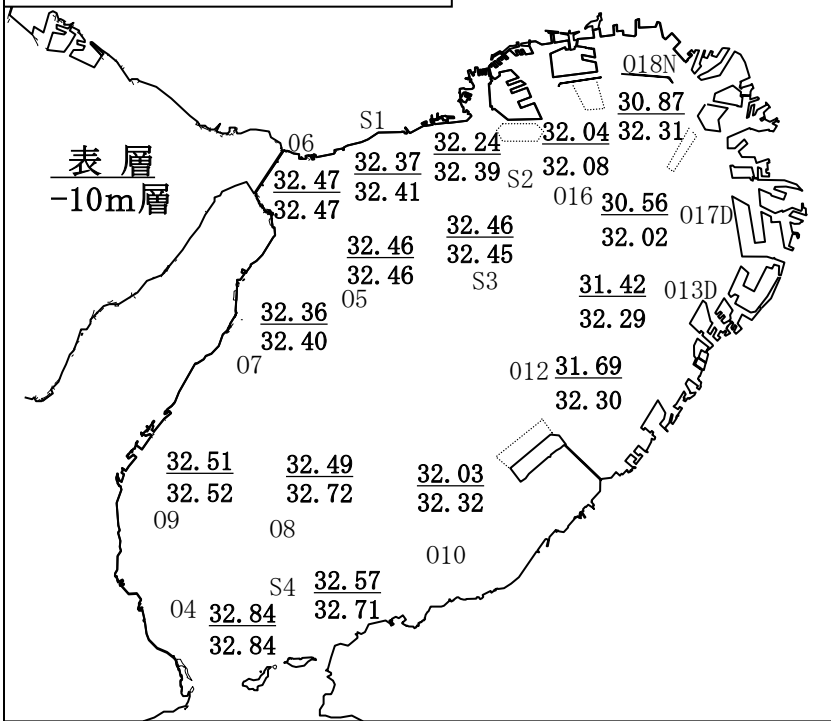
窒素は、湾奥部の陸水等の影響が見られる地点で2 μg-at/L以上、湾南西部の紀淡海峡から流入する海水の影響が見られる地点で概ね1 μg-at/L台、その他の海域では表層・-10m層ともに1 μg-at/L以下の値に低下していた。また、湾東部の表層では、リンの値も大きく低下していた。湾全域において、スケルトネマとユーカンピアが確認された。湾奥ではスケルトネマが大量発生しており、強い赤潮として目視で確認された。

上段 (今回値)	2024年 2月13日調査
中段 (昨年値)	2023年 2月13日調査
下段 (平年値)	2月上旬

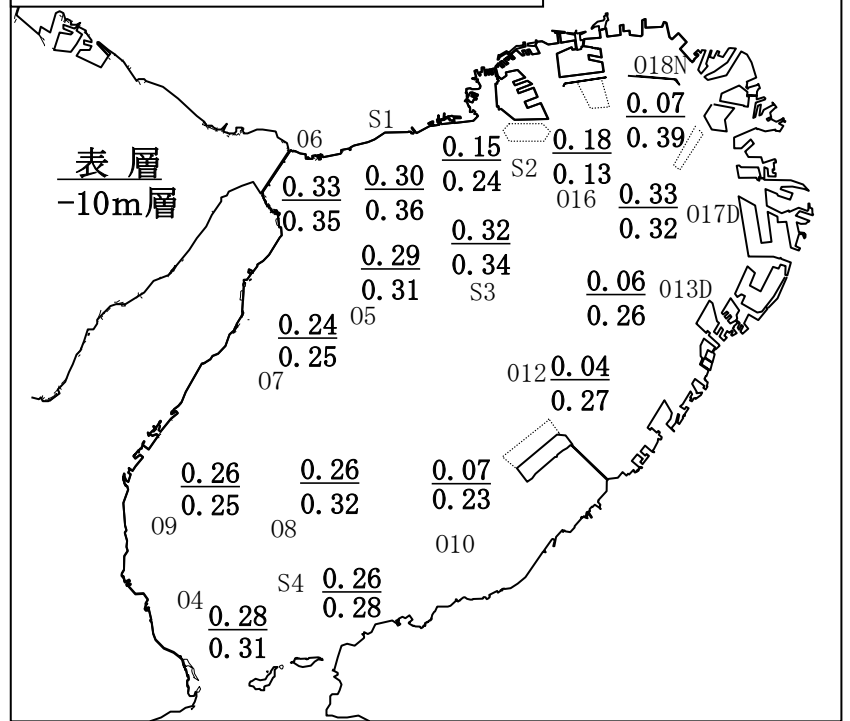
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	リン (μg-at/L)
04	11.1	32.84	1.4	0.28
	11.8	33.26	3.0	0.41
	11.4	32.67	3.8	0.34
05	10.5	32.46	0.7	0.29
	10.3	32.48	1.5	0.35
	10.2	31.95	3.1	0.35
06	10.4	32.47	0.9	0.33
	10.4	32.63	3.7	0.44
	10.2	31.79	3.9	0.36
07	10.4	32.36	0.4	0.24
	10.3	32.68	2.3	0.40
	10.0	31.87	2.7	0.29
08	10.6	32.49	0.6	0.26
	10.2	32.44	1.0	0.25
	10.4	32.01	2.2	0.25
09	10.8	32.51	0.9	0.26
	10.9	32.86	1.7	0.31
	10.5	32.08	2.4	0.27
010	10.0	32.03	0.3	0.07
	10.2	32.51	1.4	0.29
	9.6	31.49	2.9	0.18
012	9.9	31.69	0.2	0.04
	10.2	32.29	1.0	0.18
	9.5	31.08	4.2	0.20
013D	9.5	31.42	2.4	0.06
	10.1	31.48	2.9	0.07
	9.4	30.49	6.0	0.22
016	10.1	32.04	0.2	0.18
	9.9	31.44	1.1	0.04
	9.5	30.38	9.5	0.26
017D	9.7	30.56	48.0	0.33
	10.4	30.28	9.4	0.11
	9.6	29.61	13.6	0.32
018N	9.7	30.87	0.7	0.07
	10.5	29.69	15.3	0.41
	9.6	27.79	25.1	0.65
S1	10.2	32.37	0.6	0.30
	10.1	31.86	0.5	0.07
	10.0	31.49	4.8	0.31
S2	10.0	32.24	0.2	0.15
	10.1	31.46	1.2	0.18
	9.7	30.97	5.4	0.26
S3	10.2	32.46	0.7	0.32
	10.3	32.06	0.5	0.15
	10.2	31.72	3.4	0.32
S4	11.0	32.57	0.9	0.26
	11.0	32.97	2.1	0.34
	11.0	32.39	2.9	0.28



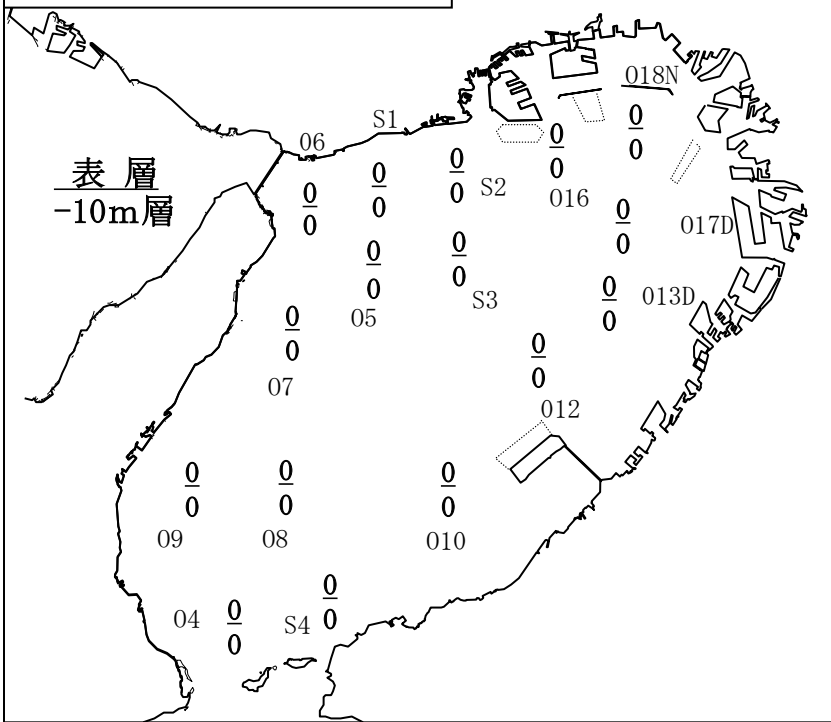
塩分 (表層、-10m層)



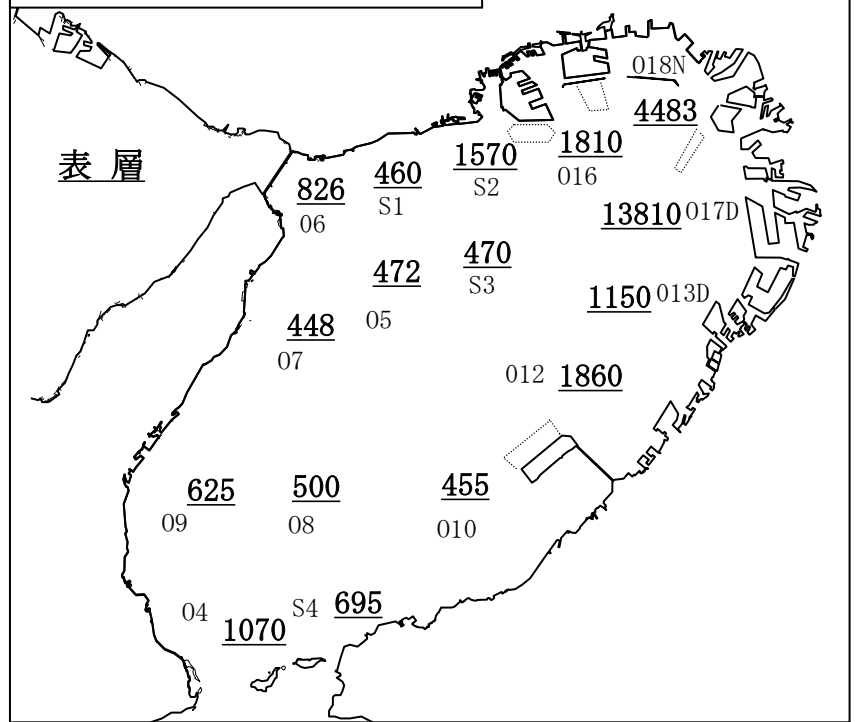
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

